

現

地で陣頭指揮をとってくれたのは、前回同様、ロスマニエ中学校のロッシーニ先生と、「ラッソイオ」スポーツクラブの副会長・グロリオツソさん。今回が初参加となる私は、まず、このふたりのソフトテニスに対する情熱に圧倒された。

彼らの取り組みは、たとえば日本でモンゴル相撲を体育の授業に導入するよりも多くの困難を伴うだろう。そんな彼らを見て、私自身もまだまだ学ぶべきものが多いと感じずにはいられなかった。

そんなふたりの尽力により、滞在期間中には数多くのデモンストレーションの場を与えられ、たくさんの人々にソフトテニスを紹介することができた。

また、北部ローマ市役所への表敬訪問も実現。日本からの使者を伴うための訪問により「学校体育への導入の足がかりになるのでは」というロッシーニ先生の熱意には思わず脱帽した。

「ロッシーニ先生に（定年までに）残された時間はあと3年。だから焦っているんだ」というグロリオツソさんの言葉に、イタリアの本気を感じた。

★
デモンストレーションに訪れた中学校で各教室をまわって参加希望者を募ったところ、30名近くの生徒たちが名乗りを上げてくれた。しかし、アスファルトの上の即席コートでしかプレーを体験させてあげられない。テニスクラブのコートも、夜はフットサルのコートとしてすべて埋まってしまう。これがイタリアの実状だ。

しかし一方で、関係者はもちろんのこと、ボールを打つ子供たちの表情の中に、確実な手応えを感じることができた。



北部ローマ市の市役所を表敬訪問し、VIPルームに通された。「イタリアの皆さん、今後ともソフトテニスをよろしくお願いします」。

イタリアではスポーツをする子供は地域のスポーツクラブに通うため、中学校のグラウンドはバスケットコートほどの大きさのアスファルトのみ。ここにペンキで白線を引いた即席コートでデモンストレーションは行なわれた。



中学生 交流記

in ローマ

9月15日～24日／イタリア・ローマ

本を出発したのはアメリカで起きた同時多発テロ事件の4日後。何ともいえない緊張感が成田空港内に漂い、不安を抱えての出発となった。2回目の訪問となる私は今回の遠征で、昨年と比べて確実にソフトテニス認知され始めていることを実感した。

デモンストレーションで訪れた各学校では、日本語の「歓迎」の文字とともに全校あげての出迎えを受けた。昨年の、ややもすると「招かれざる客」を遠巻きに見るような視線はそこにはなかった。



《日本使節団メンバー》

【野田中学校】
引率：野口英一
男子：鈴木達郎（2）、石坂文学（2）
女子：渡邊菜月（2）、原口千春（2）

【大栄中学校】
引率：川口昇吾
男子：高木善貴（2）、飯笹浩幸（1）
女子：萩原 瞳（3）、菱木あづ美（2）

※（ ）内は学年